

1 題材名 「笠チュウ」をプロデュース

2 目標

- (1) 身近な環境に関心をもち、親しみのあるデザインを考えようとする。 (美術への関心・意欲・態度)
- (2) 学校のマスコットキャラクターを魅力的に変化させるための発想や構想をすることができる。
(発想や構想の能力)
- (3) アイデアを実現するために、素材を生かした表現方法を工夫して制作することができる。
(創造的な技能)
- (4) 他者の作品の表現上の工夫やよさを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 教材について

昨年度、笠間中学校生徒会が考案したマスコットキャラクター「笠チュウ」は、本年度から学校行事や生徒会活動などで積極的に用いられ、生徒たちに親しまれている。キャラクターといえば、近年日本各地にご当地キャラクターが誕生したり、日本発のキャラクターが世界的人気を博したりしている。かわいさや親しみやすさをたくさんの人々と共感・共有することは、生徒たちにとっても身近で興味をひく題材であると考え。また、第1学年の彫刻の表現活動で扱った樹脂粘土を素材とすることで、より発展的・応用的な表現方法が期待でき、生徒一人一人のアイデアの実現につなげることができると考えた。

(2) 生徒の実態 (男子15人 女子17人 計32人 11月8日実施)

・美術は好きですか。	はい(28人)	どちらでもない(2人)	いいえ (1人)
・一番好きな活動は何ですか。	絵(10人)	彫刻(5人)	工芸(8人) デザイン(4人) 鑑賞(3人)
・大切にしている自分の作品はありますか。	ある(19人)	ない (12人)	

本学級は、積極的に表現活動に取り組む生徒が多い。創作部の中心メンバーが在籍し、高い表現技能をもち学級全体の創作意欲をリードする傾向もある。また、本年度中国から転校してきた生徒が在籍しているため、目標や手順などを伝える手段には配慮が必要である。

(3) 指導観

「笠チュウ」に愛着をもたせながら、中学校のイメージアップに役に立つ喜びを感じさせたい。そのためにもオリジナルのアイデアを忠実に実現させる指導を目指したい。中学校の思い出の作品の一つとして大切にできる作品に仕上がるよう指導したい。

4 自尊感情を高めるために

自分のデザインしたキャラクターが他者に親しまれ愛される体験ができれば、表現が実現した達成感とともに自己の主張が認められた喜びとして、自己を肯定し尊重する感情が芽生えるだろうと考える。よって、完成後の鑑賞会や展示の仕方を工夫し、他者の反応を肯定的に受容することができる環境づくりに努めたい。

5 指導計画 (6時間取扱い) ○本時

時	学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 計 画			
		関	発	創	鑑
1	オリジナル「笠チュウ」をデザインしよう	○	○		
2, 3	頭部をつくろう		○	○	
4, ⑤	胴体をつくろう		○	○	
6	接着・完成させよう 鑑賞会をしよう	○			○

6 本時の学習

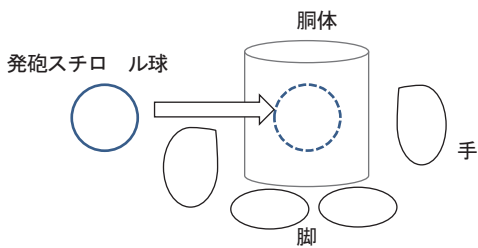
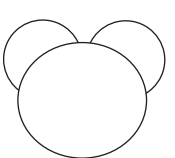
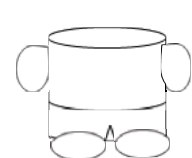
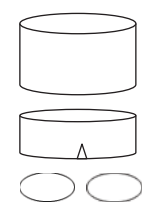
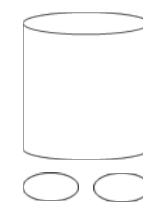
(1) 目標

表したい内容に合わせて、形や色彩の効果を考え、用具を活用しながら工夫して表すことができる。

(2) 準備・資料

ファンシークレイ(樹脂粘土), デザインセット, 発砲スチロール(30 mm球, 40 mm球), 接着剤, ラップ, 保存用ビニル袋, ヘラ, アイデアスケッチ

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ※は評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>表情や動き、形や色彩の効果を考えながら、表現方法を工夫して「笠チュウ」をつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・胴体や部品をつかって組み立てよう。 <p>2 粘土成形・接着する。</p> <p>(1) 粘土成形</p> <p>樹脂粘土に絵の具を混ぜ込み、胴体や手・脚、付属部品などを成形する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胴体には、芯材として発砲スチロールを埋め込む。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>(2) 接着</p> <p>成形後、乾燥したことを確認し、部品を接着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭部と胴体は最後に接着する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>頭部</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>胴体</p> </div> </div> <p>3 本時のまとめをし、次時の確認と片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動を確認し、乾燥させるものと密封保存するものに分けて片付ける。 	<p>・数人の生徒の活動状況を紹介しながら、前時までの流れを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成に向けて、最初にイメージしたアイデアスケッチと作品を見比べる時間をつくる。各部位の接着では、全体のバランスを考えながら、表現したい「笠チュウ」の特徴や性格が伝わるように、接着する場所や角度などを工夫することを確認する。 ・胴体のつくり方は2種類提示し、デザインによってつくりやすい方を選べるようにする。 <p style="text-align: center;">A : 上下半身に分ける B : 上下半身をつなげる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※表したい内容に合わせて、形や色彩の効果を考え、表現の構想を練っている。</p> <p style="text-align: right;"><発想や構想の能力> (作品, 観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・構想がまとまらない生徒には、再度アイデアスケッチを確認したり、友人の表し方を参考にしたりするよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※粘土の特性を理解し、用具を活用しながら効果的な表現方法を工夫している。</p> <p style="text-align: right;"><創造的な技能> (作品, 観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・手や付属品の接着に固定が必要な場合は、針金などを活用するよう助言する。 ・接着の作業にはできるだけ付き添い、手足の角度など一人一人の表現に合わせた助言をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の気づきを次時の作品完成に生かせるよう、表し方のよさ等を十分に認める。 ・乾燥させるものは、乾燥中の変形を防ぐために、重心を下にして置くよう助言する。